

## 鳥取の力

青く澄み切った日本海に面し緑豊かな中国山地を背に、大自然の恵みがいっぱいにあふれた鳥取県。東西に細長い地形に三つの河川流域に平野が形成されている。そこに鳥取市、倉吉市、米子市を中心にそれぞれに都市が発展していった。

鳥取県は私の住む兵庫県に隣接しており、昔から二十世紀梨、すいか、柿などが市場や露店で売られており、段ボールや幟に「鳥取産」がアピールされていた。いずれの商品も美味しく私の好物である。更に海産物では少々高級であるが海のミルクと言われる「岩ガキ」がある。夏が旬で一般的な「真ガキ」に比べて身が大きく究極の味覚である。そして魚のハタハタ。年間の漁獲量は全国でもトップクラス。



勿論、冬の日本海は何ととっても味覚の王様「松葉ガニ（ズワイガニ）」である。鳥取の友に聞いたが、子供のころのおやつはお菓子とかケーキではなく茹でたカニであったそうだ。鳥取県西部に位置する境漁港でのカニ類の水揚量は日本一を誇る。

イベントでは商工振興を目的に古くから伝わる「因幡の傘踊り」を元に考案された「しゃんしゃん祭」。毎年8月中旬に鳥取市内で開催されている。約4000人が一斉に市内を踊り18万人以上の見学者を楽しませてくれる。全国で人口の最も少ない鳥取県（57万人）である。しかしそこで暮らす人達の逞しく生きる力強さが伝わってくる。

撮影 2013年冬



「しゃんしゃん祭」  
毎年8月に行われる「鳥取しゃんしゃん祭」  
4千人の踊り子が一斉に傘を手に踊り、街の  
目抜き通りは傘の花が満面に咲き誇ります。  
そして踊りがあふれる「しゃんしゃん祭」の  
音が街中に響き渡ります。鳥取市